

施策の柱1 持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開

本県では、令和3年3月に策定した「第4次山形県環境計画」において、「持続的発展が可能な豊かで美しい山形県」を構築していくには、持続可能な社会や環境を支える「人づくり」が全ての基盤であるとして、全ての施策に係る重要施策と位置付けています。

環境問題を「自分ごと」として捉えるための意識改革・行動変容の促進を図るため、気候変動を防災や健康など自らの命や暮らしにも関わる身近な問題と関連付け、全ての世代の県民一人ひとりが、環境に配慮した行動ができるようライフステージを踏まえた環境教育・環境学習を推進していく必要があります。

特に、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組みは時代の要請であり、全ての県民がその趣旨を理解し、県民総ぐるみによる運動として取り組むとともに、次代をけん引する若者の育成や若者が活躍できる環境づくりが求められています。

1 山形県における環境の状況

本県における環境教育「人づくり」

- 「カーボンニュートラル」とは、大気中に排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの量から、森林等が吸収する二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの量を差し引いて、全体を実質ゼロにすることです。
- 令和3年度に県民のカーボンニュートラルの認知度を調査したところ、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が29.4%、「言葉は知っているが意味は知らなかった」と回答した割合が23.4%、「言葉も意味も知らなかった」と回答した割合が45.6%という結果になりました。

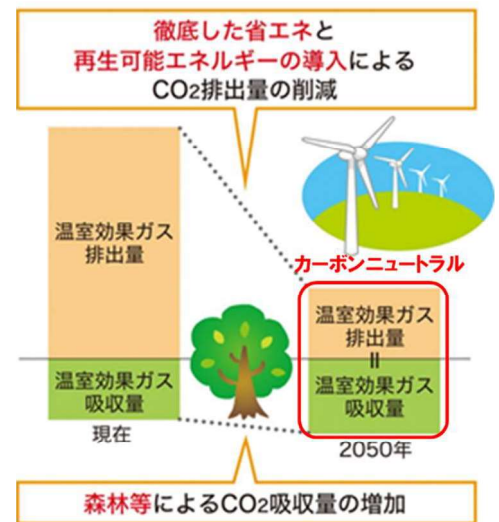
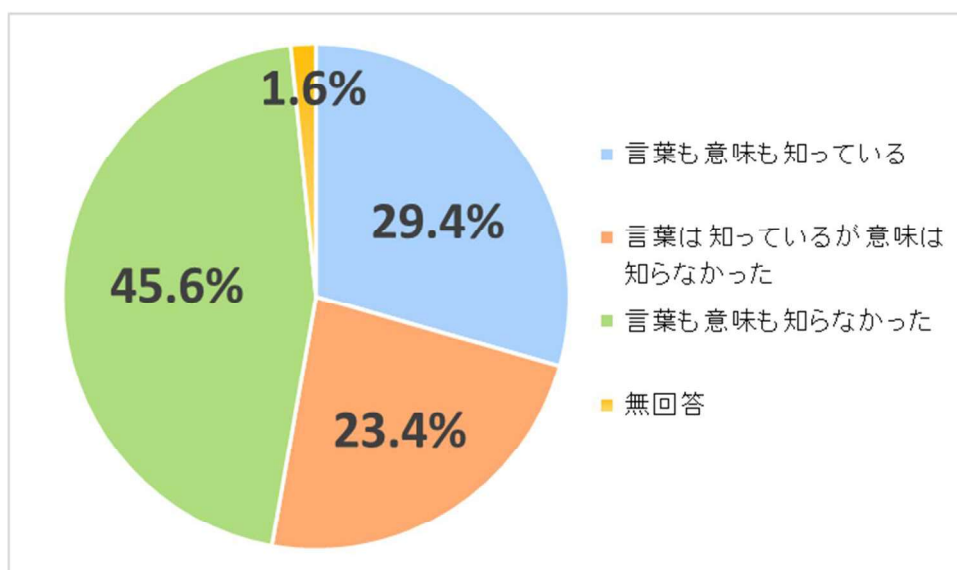
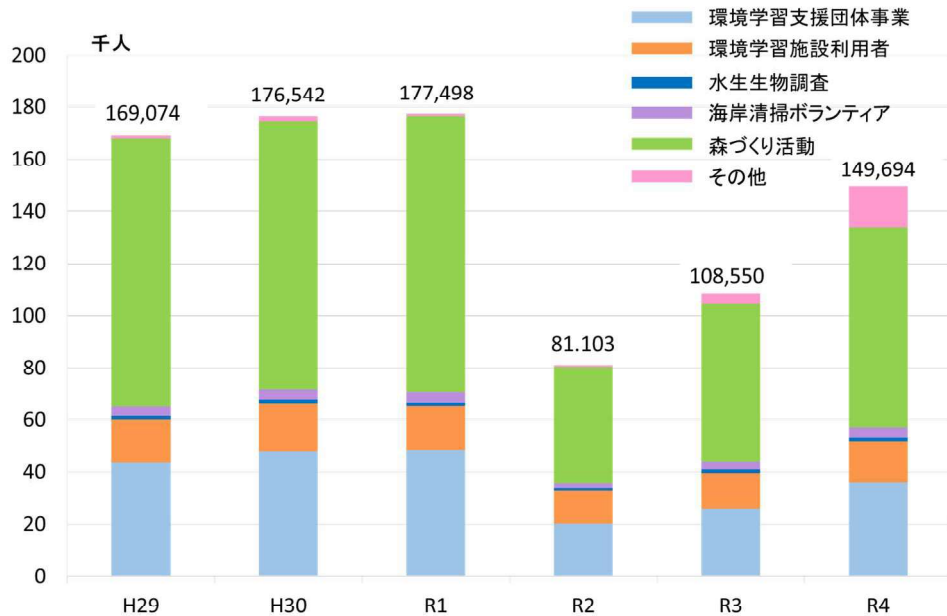


図1-1 「カーボンニュートラル」の言葉と意味の認知度（令和3年度）



- 令和4年度の環境学習・環境保全活動への参加者数は、14万9千人で、令和3年度と比較して4万1千人増加しました。前年度より参加者数が増加した主な要因として、環境に関する県内でのイベントや環境教室の開催が増加したこと等が挙げられます。

図1-2 本県における環境学習・環境保全活動への参加者数の推移



2 施策の柱1に係る取組み

(1) 環境問題を「自分ごと」と捉えるための意識改革・行動変容の促進、県民総ぐるみによる運動の展開

ア カーボンニュートラルやまがた県民運動の展開

- 県民一人ひとりが、身近なところから、できることから、カーボンニュートラルに向けたアクションにチャレンジし、「豊かで美しい山形県」を県民総ぐるみで将来に継承していくため、「みんなの地球（あす）のためにチャレンジ！カーボンニュートラルやまがた県民運動」を新たに展開することとし、県民運動の推進組織として「カーボンニュートラルやまがた県民運動推進会議」を設立するとともに、キックオフとなる県民運動推進大会を開催しました。



カーボンニュートラルやまがた県民運動推進大会

イ 県内各施設におけるカーボンニュートラル広報啓発巡回展示の実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向けて、県民の皆様に対して「カーボンニュートラル」という言葉や趣旨について理解を促し、省エネルギーへの取組みや再生可能エネルギーの導入といった具体的な取組みへの理解・協力を呼び掛けることを目的として、県内5市町（上山市、河北町、舟形町、白鷹町、庄内町）の庁舎や県立図書館といった公共施設6会場に特設の展示ブースを設置し、啓発ポスターやリーフレット、チラシ入りポケットティッシュ等を配置し、普及啓発を実施しました。

ウ カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストの実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向け、県民の方々にカーボンニュートラルについて学び、考えていただくとともに、作品を通してカーボンニュートラルについて広く周知するため、カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストを新たに実施しました。
- 令和4年度は、「カーボンニュートラル実現への思い」をテーマに「標語」と「ポスター」を募集し、小学生の部、中学生の部、一般の部合わせて574点の作品の御応募を頂きました。

エ 公用車への電気自動車導入によるカーボンニュートラル普及啓発

- 県が自ら排出する温室効果ガスを削減するため、公用車として電気自動車4台、プラグインハイブリッド車1台を県庁及び各総合支庁に導入するとともに、カーボンニュートラルをイメージしたデザインを車両にラッピングすることにより、県民へのカーボンニュートラル普及啓発に活用しました。



ラッピングを施した電気自動車

オ 省エネ家電買換えキャンペーン

- 本県で排出されるCO₂のうち家庭部門からの排出量は2割を超えており、またその排出源として電気が約6割を占めております。家庭部門からのCO₂排出量削減のためには、省エネ機器などへの更新による消費電力の削減が必要となるため、県民に「省エネ・節電」につながる省エネ家電への買換えを促す「省エネ家電買換えキャンペーン」を実施しました。キャンペーンにおいて453名の応募者から抽選で100名に県産品カタログギフトを贈呈しました。

(2) 担い手の発掘・育成と活躍できる環境づくり

ア やまがたカーボンニュートラル大使の委嘱

- 環境に関心を持つ小・中・高校生が、2050年に社会の中心となることを見据え、カーボンニュートラルについて考え、話し合い、交流するとともに、取組み事例や取組みの大切さなどを情報発信することにより、カーボンニュートラルの実現に向けた機運の醸成と県民一人ひとりの取組みに波及させることを目的としています。
- 令和4年度は、環境に関心を持ち、取組みを実践している小・中・高校生の8グループに「やまがたカーボンニュートラル大使」を委嘱しました。

【やまがたカーボンニュートラル大使一覧】

学校名・グループ名	環境学習の概要
東根市立東郷小学校児童会（東根市）	学校の環境方針に基づく省エネ等の環境活動
遊佐町立藤崎小学校第4学年（遊佐町）	松林の学習と枝打ち・植林の保全活動
新庄市立新庄中学校生徒会「愛修会」（新庄市）	新庄祭り後の市街地清掃活動
県立山形東高等学校探究部 温泉と雪で熱発電チーム（山形市）	温度差発電の研究
県立山形東高等学校探究部 微生物発電チーム（山形市）	微生物発電の研究

県立山形工業高等学校 山工元気プロジェクトチーム（山形市）	廃食用油利用のマンゴー栽培
学校法人九里学園高等学校 1, 2学年プログレスコース（米沢市）	気候変動等の探究学習、政策提言
県立酒田光陵高等学校 光陵省エネ電工チーム（酒田市）	太陽光パネル、LED の設置

イ 高校・大学等を対象とした若者向け環境SDGsワークショップの開催

- 令和2年度より、カーボンニュートラルの実現に貢献できる人材の育成を図るため、山形県民CO₂削減価値創出事業「やまがた太陽と森林（もり）の会」の取り組みにより得られた収益を活用し、若者を対象とした環境SDGsワークショップの開催を支援しています。令和4年度は、SDGsや地球温暖化、気候変動適応をテーマとして、県内の高等学校や大学など16校において合計20回のワークショップを開催しました。



【若者向け環境SDGsワークショップの開催先一覧】

学校名	
県立米沢興譲館高等学校	専門学校山形Vカレッジ
山形大学農学部	県立山形工業高等学校
県立長井高等学校	県立農林大学校
県立新庄南高等学校	県立天童高等学校
県立米沢東高等学校	県立遊佐高等学校
県立寒河江高等学校	県立酒田西高等学校
県立山形東高等学校	東海大山形高等学校
酒田南高等学校	県立庄内農業高等学校

ウ 山形県学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」による普及啓発活動の実施

- 令和4年度より、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向け、県民の環境意識の醸成及び普及啓発の担い手の育成を目的に、県内の大学生等を対象に学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」を募集し、研修を通して人材育成を図るとともに、普及啓発活動を実施しています。令和4年度は、計26名の学生をボランティアとして登録し、小学校への出前授業ややまがた環境展をはじめとする県内各地での環境イベント等において、計11回普及啓発活動を実施しました。



キックオフミーティング（研修会）の開催



やまがた環境展での普及啓発活動

エ 環境学習支援団体の認定

- 環境の保全に関する情報の提供や体験機会の提供などを通して、県民の皆さんの環境学習を支援している民間団体を認定し、広く紹介することにより環境学習の機会の拡大を図り、環境保全の意欲増進を図ることを目的として、平成16年度から認定を行っています。

- 令和4年度末現在52団体を認定し、県ホームページ等において各認定団体の活動について紹介しています。

令和4年度新規認定団体	実施概要
特定非営利活動法人 葉山の里たしろ（寒河江市）	里山の大切さを学ぶ、里山体験活動や宿泊体験等
株式会社メカニック（酒田市）	営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の見学
叶理家(かなりえ)協同組合（東根市）	住宅展示場の見学を通して、太陽光発電・蓄電池・V2Hなどについて、実際に見て、触れて、学ぶ
リアクトバイオガス株式会社（天童市）	畜産廃棄物や食料残渣を利用したバイオガス発電施設の見学

オ 「やまがた木育」の取組み

- 平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくこと」を「やまがた木育」と決めました。



- 令和4年度は、「木育クラフト」、小学校高学年向け副教材「やまがたの森林」とポケット版教材「森のたんけん手帳」を配布しました。また、「やまがた木育」の指導者を養成するため、やまがた木育人材養成講座（スタートアップ、スキルアップ）を開催しました。

やまがた木育人材養成講座【スキルアップ】



【令和4年度実績】

スタートアップ：2回（32名） スキルアップ：1回（10名） 県立自然博物館で自然に親しむ園児たち

- また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により屋外活動が減少した幼稚園・保育園児及び小中学生を対象に、令和2年度より実施している各学校等から県立自然博物館への日帰りバスツアーを、令和4年度も実施しました。

カ 環境保全団体の顕彰

- 県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に功績のあった方を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。
- 令和4年度は、次の4団体が受賞しました。

受賞区分及び受賞団体	功績概要
【大賞】特定非営利活動法人 美しいやまがた森林活動支援センター	環境教育出前講座や自然環境を学べるイベントの開催をはじめ、森林にまつわる啓発活動を16年以上多岐にわたって実施
【大賞】サーモンロードの会	鮭を守る稚魚放流等の川資源保全活動を22年以上にわたり地元や東京の小学校と連携して実施
【大賞】ネイチャーフロント米沢	回復が困難とされる弥兵衛平湿原の植生復元活動を約20年継続し、湿原の着実な回復を実現
【奨励賞】特定非営利活動法人 田舎体験塾つのかわの里	県内外を問わず中学生や高校生を対象とした農業体験や里山保全活動等の教育旅行の受入れや大学と連携した実践的な環境学習を実施

(3) 学習機会の充実

ア 環境科学研究センターの環境教育拠点機能の充実

- 本県における環境教育の拠点施設である環境科学研究センターでは、県民による自主的で活発な環境保全活動が展開されるよう、環境教室の開催や教材の貸し出しを行っているほか、環境アドバイザー等の派遣、水生生物調査への参加呼びかけなどを通じ、環境意識の醸成を図っています。また、県内で行われる環境関連イベントなど環境に関する情報について、ホームページやSNSで発信しています。

(ア) 環境相談の受付・教材の貸出等

- 環境教育に関する相談窓口の設置、環境情報・自然環境棟における環境関連の図書やDVD等の展示・貸出、体験学習の支援など

(イ) 環境教室の開催

- 学校、団体、放課後子ども教室・放課後児童クラブなどを対象とした所内教室・出前講座の実施

【令和4年度実績】 160回（4,724名参加）

《講座例》リサイクル工作、水生生物調査、水質調査



環境教室の様子

(ウ) 環境アドバイザー等の派遣

- 環境やエネルギーに関する専門的な知見を有する環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣

【令和4年度実績】 41回（1,290名参加）

《講座例》地球温暖化、食品ロス、SDGs、リサイクル工作、海ごみ、脱炭素社会の実現

(エ) 親子で楽しむ環境科学体験デー

- 環境月間（6月）推進事業の一環として、環境への関心を深めるとともに、環境科学研究センターの業務や施設を県民に知っていただくことを目的に平成15年度から開催

【令和4年度実績】 6月26日開催（入場者延べ149名）

《実施内容》「バスボムをつくろう!」「里山探検に出かけよう」等の実験、体験コース

イ 情報発信の強化

- より多くの県民の方々に環境のことを「自分ごと」として捉えてもらう普及啓発のため、令和3年2月にスマートフォン対応のサイト「環境情報やまがた」を作成するとともに、SNS「つなが環境やまがた」にて環境に関する情報を発信しています。

「環境情報やまがた」では、山形県にゆかりのあるYouTuberとコラボした環境啓発動画の配信や環境保全に関する若者と連携した取組み、山形県の環境に関するデータなどを提供しています。

ウ 「カーボンニュートラルやまがた県民運動」ロゴマークの作成

- 県民へのカーボンニュートラルの普及啓発・理解促進のため、「カーボンニュートラルやまがた県民運動」のシンボルとなるロゴマークを作成し、「令和4年やまがた環境展」において公表しました。



作成したロゴマーク

(4) パートナーシップの充実・強化

- 環境学習支援団体のほか、環境学習・環境教育に関わる方々を対象に、環境教育を実践するうえでのスキルアップを目指していただくとともに、意見交換を通じた団体との連携強化及びパートナーシップの構築を図り、交流する場として、「環境地域づくり担い手連携推進セミナー・山形県環境学習支援団体交流会」を開催しました。

【令和4年度実績】

・計29名参加

① 講演「学校・地域における環境教育と活動団体との連携」

講師：山形大学 学術研究院 教授 今村 哲史 氏

② 事例発表「環境保全活動を通じた人づくりと地域づくり

～美しいやまがた森林活動支援センターでの環境学習実践活動に学ぶ～

講師：NPO法人美しいやまがた森林活動支援センター 副理事長 横戸 美栄 氏

③ 山形県環境学習支援団体認定式

④ 意見交換